

令和3年度第3回東御市公共交通活性化協議会

協議事項(2):アンケート調査結果について

令和3年12月

東御市公共交通活性化協議会

【 目 次 】

1. アンケート調査の目的.....	1
2. 調査の概要.....	1
3. アンケート調査結果.....	2
(1) 回収数.....	2
(2) 標本誤差について.....	4
(3) 回答について.....	5

1. アンケート調査の目的

市内の移動実態を把握するとともに、公共交通の現状課題を認識し、需要促進に向けた取り組みの方向性を検討するための資料とすることを目的とする。

- 移動実態の把握
- 公共交通の利用状況
- 公共交通の課題と利用可能性の把握

2. 調査の概要

民生児童委員、学校、交通事業者、施設管理者等の協力を受け、以下の各種意向調査を実施した。全体を通して、「公共交通に対するニーズが高いと推測される者」の意見をより丁寧に把握する構成としている。

「公共交通に対するニーズが高いと推測される者」は「自分で車を運転できない(しない者)」及び「運転をできない(しない)者の移動を手助けしている者」と想定し、「高齢者のうち独居または高齢者のみの世帯の者」と「小中高校生（保護者含む）」は全量調査とした。

また、調査内容は、現在、公共交通を利用している者は不満点や今後の利用意向、利用していない者には利用していない理由や今後の利用可能性を聴取する構成としている。

アンケート調査名	調査対象	調査方法	対象人数	回収数[回収率]	調査期間
①高齢者アンケート（聞き取り）	65歳以上の高齢者のうち、独居または高齢者のみの世帯の者	民生児童委員の訪問時による聞き取り	3,258世帯 4,816人	2,383部[73.1%] (3,643人分)	令和3年 6月～7月
②小中高校生保護者アンケート	・市内小中学生の保護者 ・市内在住及び市内高校に在学する高校生の保護者	配布:学校経由 郵送 回収:オンライン	保護者2,283人 ・市内在住2,018人 ・市外在住(子が市内高校に在学)265人	898部[39.3%] (小中高校生1,507人分)	令和3年 10月～11月
③高校生アンケート	市内在住及び市内高校に在学する高校生	配布:学校経由 郵送 回収:オンライン	高校生1,044人 ・市内在住779人 ・市外在住(市内高校に在学)265人	125部[12.0%]	令和3年 10月～11月
④市民アンケート	市内在住の18歳以上の者から無作為に抽出(①及び②の保護者を除く)	配布:郵送 回収:郵送またはオンライン	1,800人	776部[43.1%] (郵送715部、オンライン61部)	令和3年 10月～11月
⑤定時定路線バス利用者アンケート	定時定路線バス利用者	配布:車内設置 回収:郵送	—	24部	令和3年 10月～11月
⑥とうみレッツ号利用者アンケート	デマンド交通利用者	配布:車内設置 回収:郵送	—	104部	令和3年 10月～11月
⑦観光施設等利用者アンケート	観光施設等利用者	配布:施設設置 回収:郵送 回収箱 オンライン	—	152部 (郵送41部、回収箱102部 オンライン9部)	令和3年 10月～11月

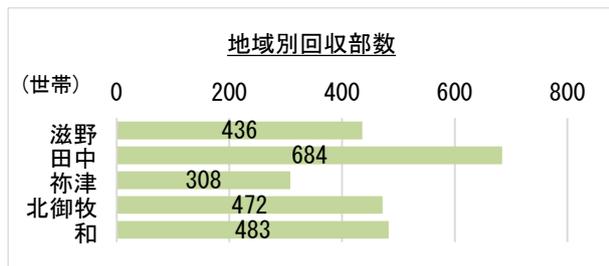
3. アンケート調査結果

(1) 回収数

各アンケート調査の回収数を以下に示す。

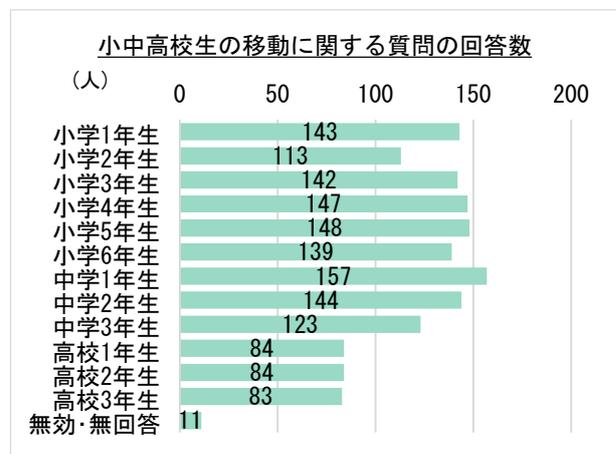
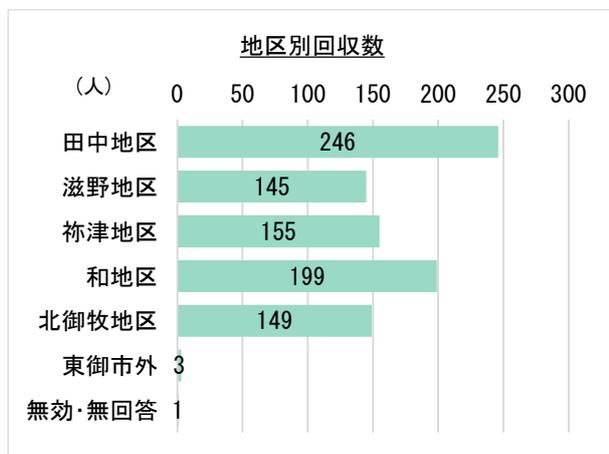
①高齢者アンケート（聞き取り）（回収数：2,383部（2,383世帯、3,652人分））

【回収率：73.1%（世帯数）、75.6%（人数）】



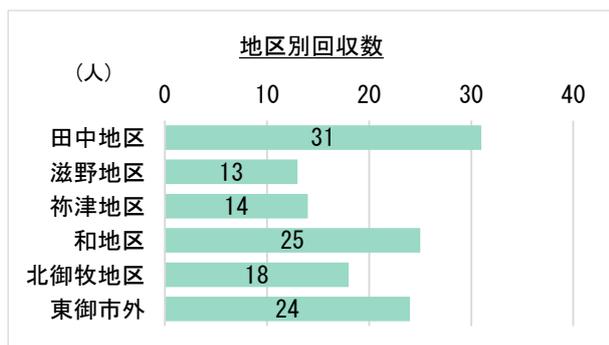
②小中高校生保護者アンケート（回収数：898部（小中高校生1,507人分））

【回収率：39.3%（保護者数）、44.1%（小中高人数）】

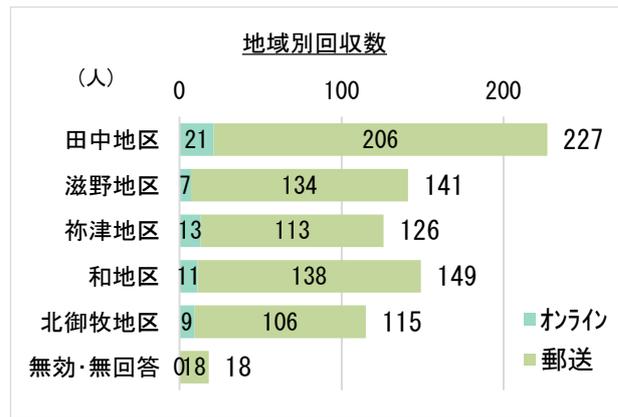
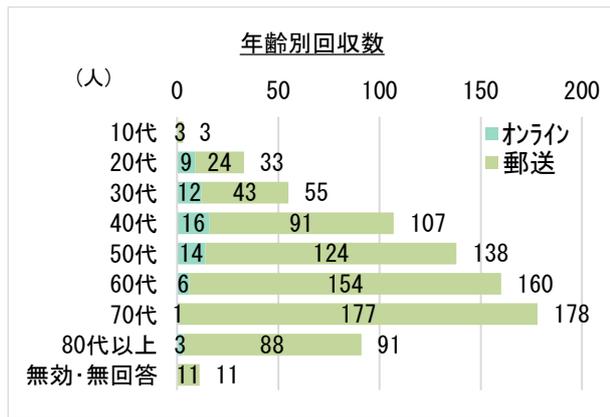


③高校生アンケート（回収数：125部）

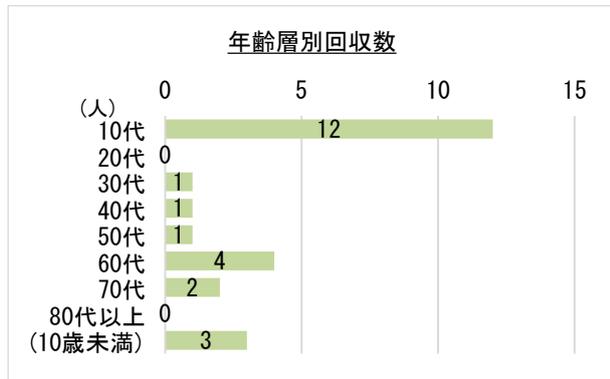
【回収率12.0%】



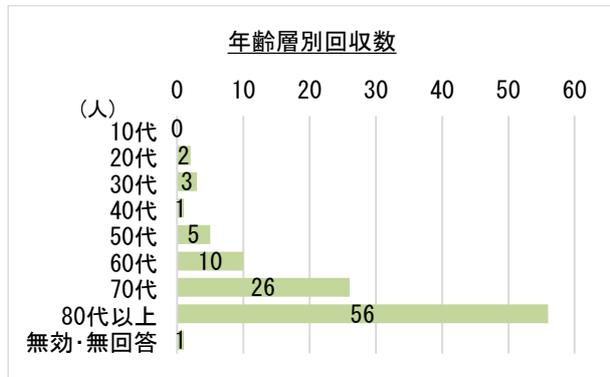
④市民アンケート（回収数：776部（郵送715部、オンライン61部）） 【回収率43.1%】



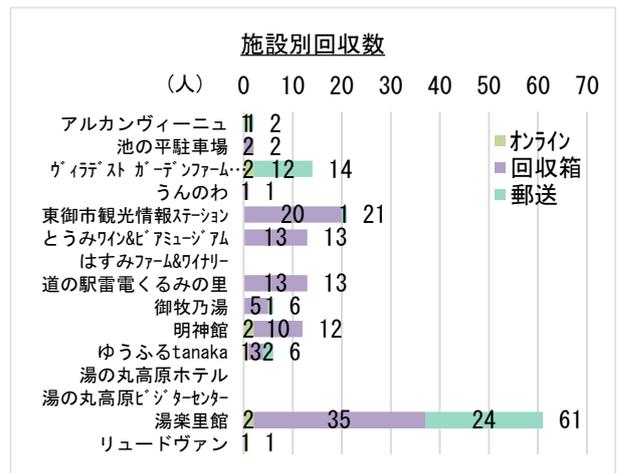
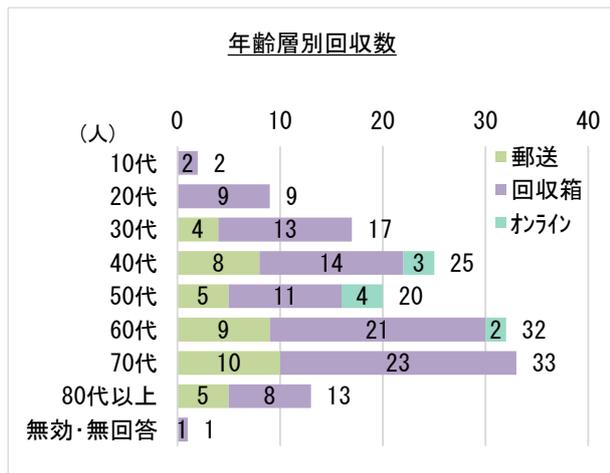
⑤定時定路線バス利用者アンケート（回収数：23部）



⑥とうみレッツ号利用者アンケート（回収数：104部）



⑦観光施設等利用者アンケート 152部（郵送41部、回収箱102部、オンライン9部）



(2) 標本誤差について

各アンケート調査において調査対象の全員から回答を得られてはいないため、アンケートの結果と母集団（調査対象）の結果には、一定の範囲で誤差が含まれる可能性がある。この誤差を標本誤差として以下の計算式から算出する。

■ 標本誤差の計算式

$$\text{(母集団の人数が明らかな場合)} \quad \text{(標本誤差)} = k \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

$$\text{(母集団の人数が不明の場合)} \quad \text{(標本誤差)} = k \sqrt{\frac{p(1-p)}{n}}$$

N : 母集団 n : 有効回答数 p : 母比率 k : 信頼度係数

(p は標本誤差が最大となる 0.5、 k は信頼度 95% の場合の係数 1.96 とする)

上記の計算式に基づく各アンケートの標本誤差を以下に示す。

アンケート調査名	N	n	標本誤差
①高齢者アンケート（聞き取り）	4,816	3,643	0.6%
②小中高校生保護者アンケート	2,283	898	2.5%
③高校生アンケート	1,044	125	8.2%
④市民アンケート	25,227	776	3.5%
⑤定時定路線バス利用者アンケート	-	24	20.0%
⑥とうみレッツ号利用者アンケート	-	104	9.5%
⑦観光施設等利用者アンケート	-	152	7.8%

例えば市民アンケートであれば、母集団(18歳以上の市民全体)の結果は、95%の確率（信頼度）でアンケート結果の±3.5%の範囲内である計算となり、統計上有効な数値であると考えられる。

(3) 回答について

各アンケート調査の集計結果（単純集計を除く）を以下に示す。なお、各グラフの右上の数字は、集計元のアンケート番号を表している。

■高齢者の移動について（独居または高齢者のみの世帯）

外出時の移動に不自由していますか。（運転免許の所持・年齢層別）

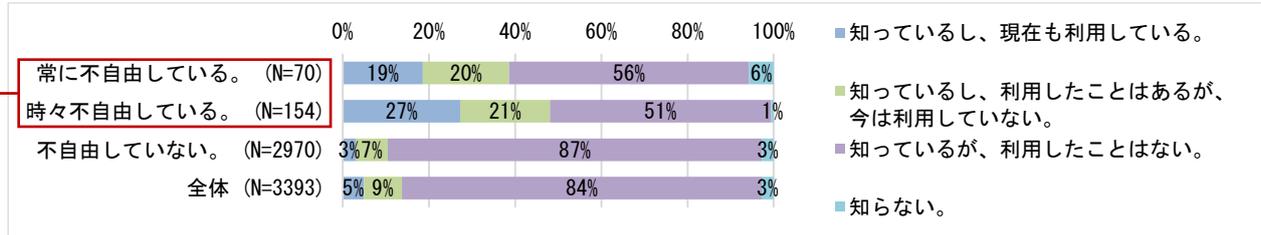
①



運転免許を「持っていたが返納した」と回答した人が最も移動に不自由している。運転免許を「持っている」人は移動に不自由していない人が多いが、高齢になるにつれて不自由に感じる人の割合が大きくなっている。

デマンド交通『とうみレッツ号』をご存じですか。（移動の不自由さ別）

①



とうみレッツ号を知っている人は全体の95%以上となっており、高齢者の認知度は高い。一方で、移動に不自由していない人の9割弱は利用したことがない。移動に不自由を感じている人の方が利用したことがある人の割合が大きいが、それでも半数以上の人には利用していない。

デマンド交通『とうみレッツ号』をご存じですか。（地区別・移動に不自由している人のみ）

①

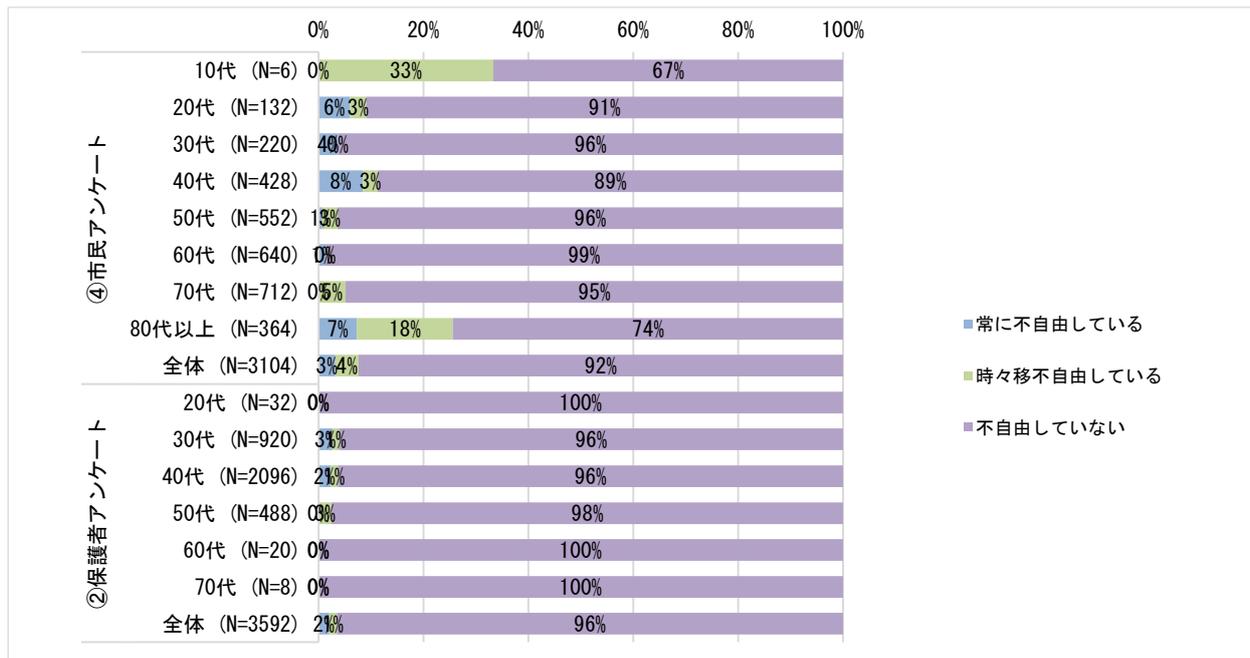


滋野地区は他の地区と比較して「知っているが、利用したことはない」と答える人の割合が大きい。

■外出時の移動の自由度について（市民・保護者）

外出時の移動の自由度（年齢層別）

②④



20代から70代では外出時の移動に「不自由していない」人がそれぞれ9割以上となっている。10代及び80代以上では、不自由に感じている人が他の年齢層と比較して高い。独居または高齢者のみの世帯のアンケート結果と概ね同様な傾向となっている。

外出時の移動の自由度（運転免許の所持別）

②④

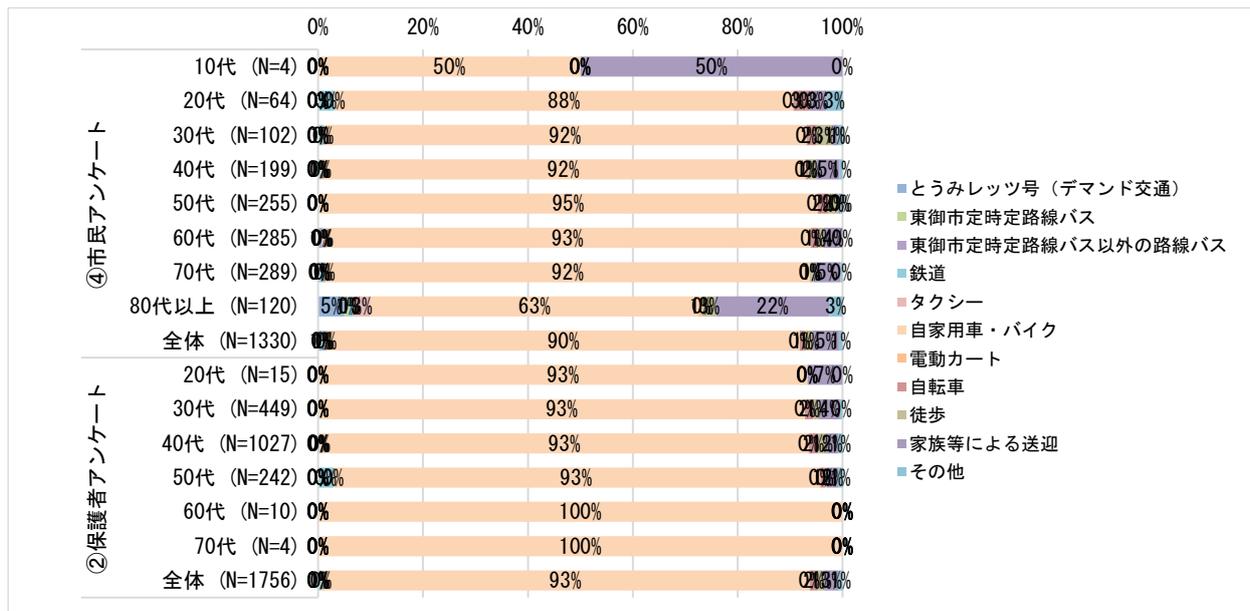


運転免許がある人と比較してない人の方が移動に不自由していることが分かる。

■ 日常の外出状況について（最も頻度が高い移動・2番目に頻度が高い移動）

移動手段（年齢層別）

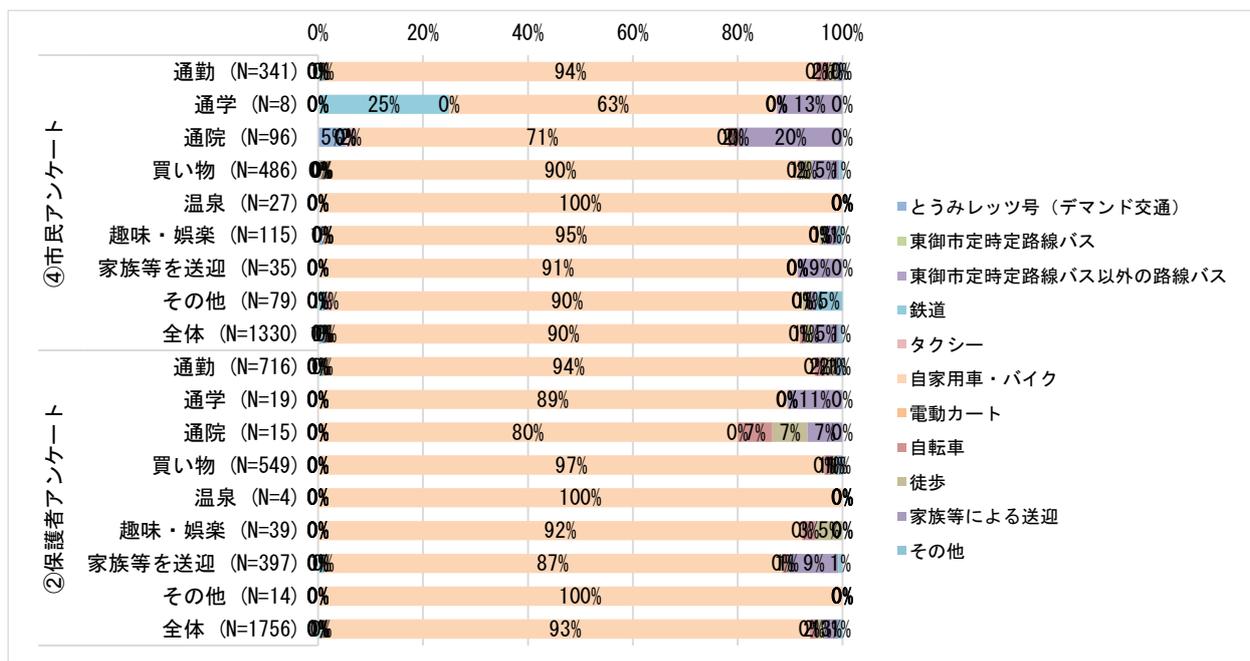
②④



80代以上の人は、「自家用車・バイク」の利用率が他の年齢層と比べて低く、「とうみレッツ号」や「家族等による送迎」の割合が大きくなっている。

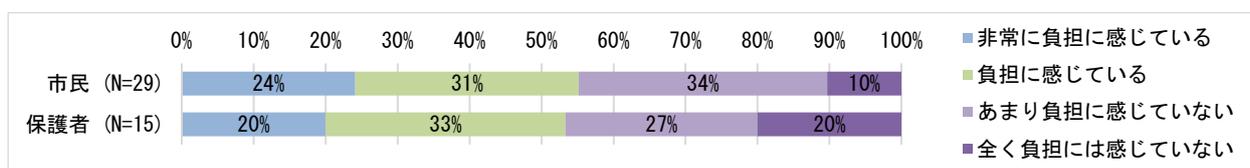
移動手段（目的別）

②④



いずれの移動目的においても「自家用車・バイク」の利用率が最も高くなっている。

（「家族等による送迎」を回答した人）ご自分が家族に送迎してもらうことを負担に感じますか ②④

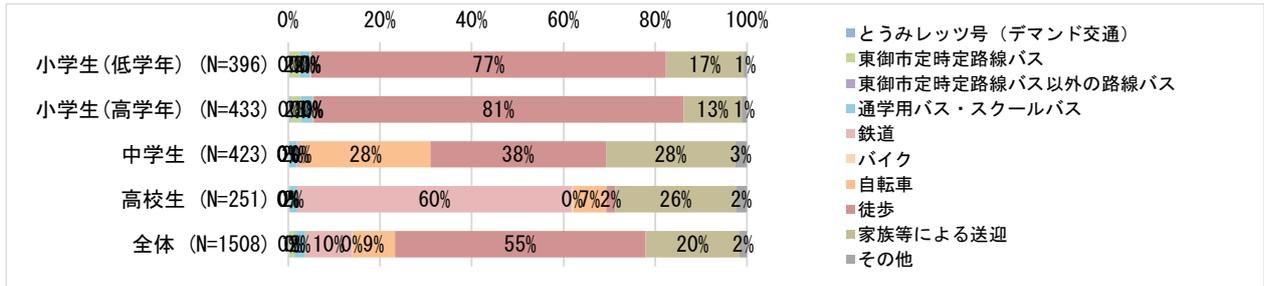


「非常に負担に感じている」、「負担に感じている」人が「あまり負担に感じていない」、「全く負担には感じていない」人を若干上回っている。

■小中高校生の通学状況

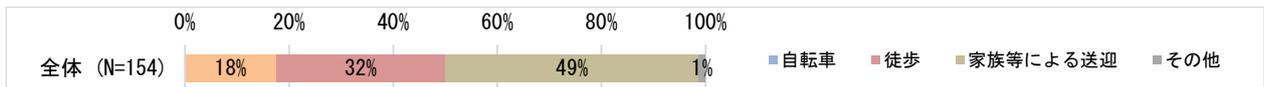
通学方法（小中高別）

②



(「鉄道」を回答した人) 駅までの移動手段

②



小中学生は「徒歩」による移動が最も多い。「家族等による送迎」で通学しているのは、小学生の約15%、中学生の約30%、高校生の約55%（駅までの送迎を含む）となっている。通学にバスを利用しているのは全体の約4%である。

(「家族等による送迎」を回答した人) 車による送迎の主な理由

②



学年が上がるにつれて「他に利用できる移動手段がない」ことを理由に挙げる割合が増加しており、高校生では6割以上となっている。

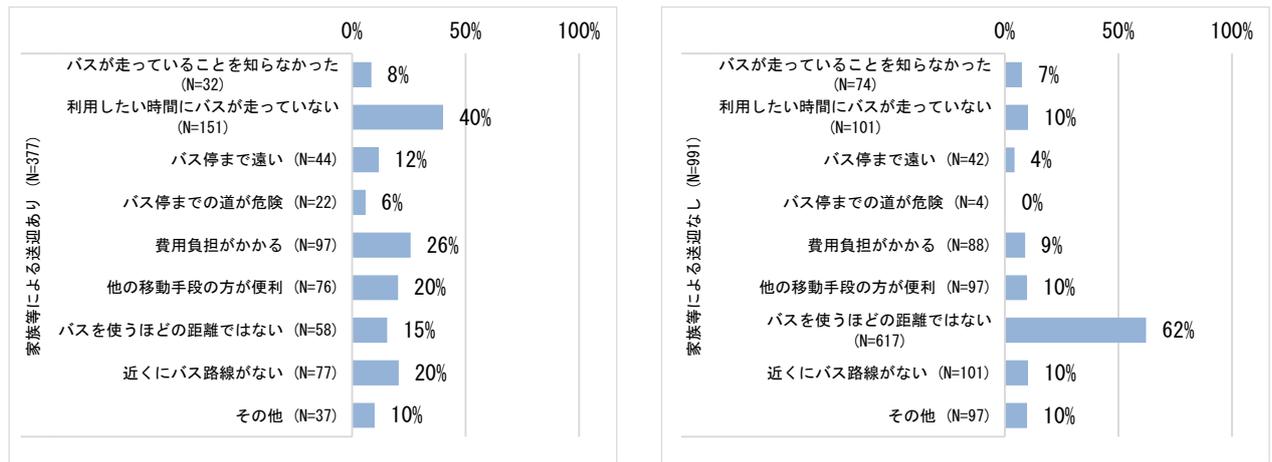
(「家族等による送迎」を回答した人) 送迎する(してもらう)ことについてどのように考えるか ②③



学年が上がるにつれて送迎を負担に感じている保護者の割合は増加している。また、送迎をしてもらっている高校生自身も、送迎をしてもらっていることを負担に感じており、その割合は概ね保護者と一致している。

通学にバスを利用しない理由は【複数回答】（「家族等による送迎」の有無別）

②



保護者が送迎をしている子どもがバスを利用しない理由としては、「利用したい時間にバスが走っていない」ことを挙げる人が40%で最も多く、「費用負担がかかる」が26%で2番目に多い。一方、送迎してもらっていない子どもが利用しない理由としては、「バスを使うほどの距離ではない」が62%で過半を越えており、それ以外は10%以下となっている。

問題が解消された場合、お子様にバスを利用させたいですか（「家族等による送迎」の有無別）

②



（「いずれにしてもバスは利用させない」を回答した人）利用しない理由は

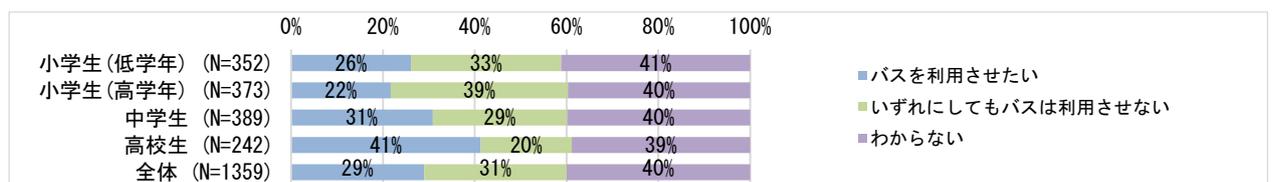
②



実際に子どもを送迎している保護者は、送迎していない保護者と比較して「バスを利用させたい」と考えている割合が大きい。

問題が解消された場合、お子様にバスを利用させたいですか（小中高別）

②



（「いずれにしてもバスは利用させない」を回答した人）利用しない理由は

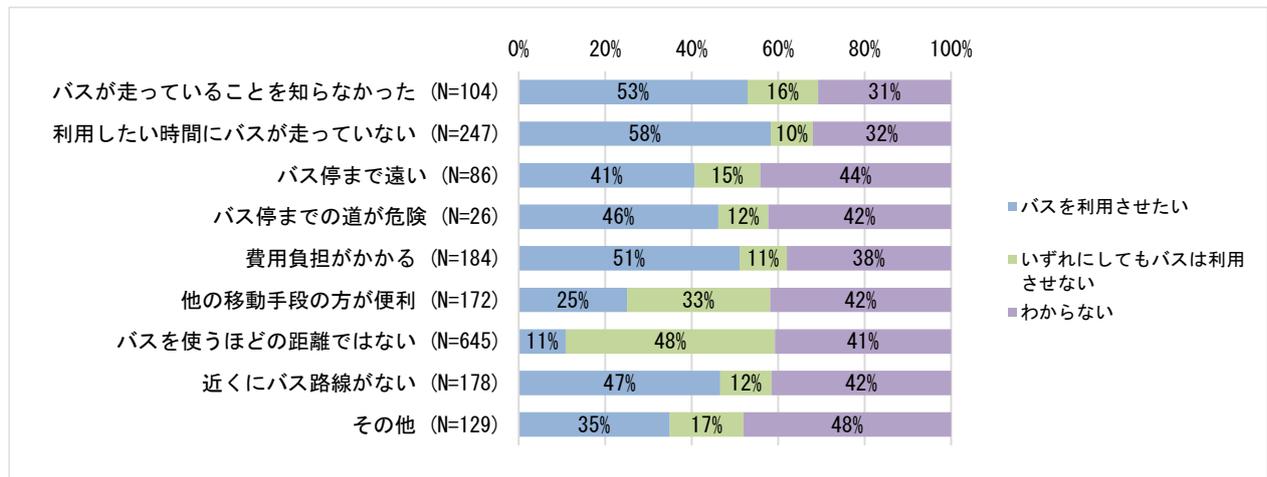
②



「バスを利用させたい」と考えているのは、小学生の保護者が約25%、中学生の保護者が約30%、高校生の保護者が約40%である。「いずれにしてもバスを利用させない」とする主な理由は、「徒歩や自転車で行ける」ことを挙げる人が多い。

問題が解消された場合、お子様にバスを利用させたいですか（バスを利用しない理由別）

②

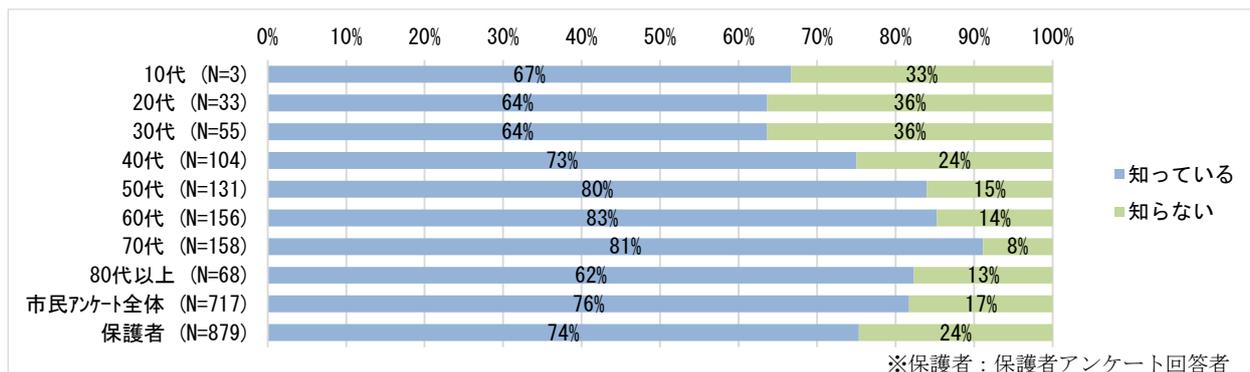


バスを利用しない理由として最も多いのは、「バスを使うほどの距離ではない」であり、この問題が解消されても「バスを利用させたい」としているのは11%である。2番目に多い理由として「利用したい時間にバスが走っていない」ことが挙げられているが、この問題が解消された場合、58%が「バスを利用させたい」と考えている。

■ とうみレッツ号の認識、利用状況

運行の認識 (年齢層別)

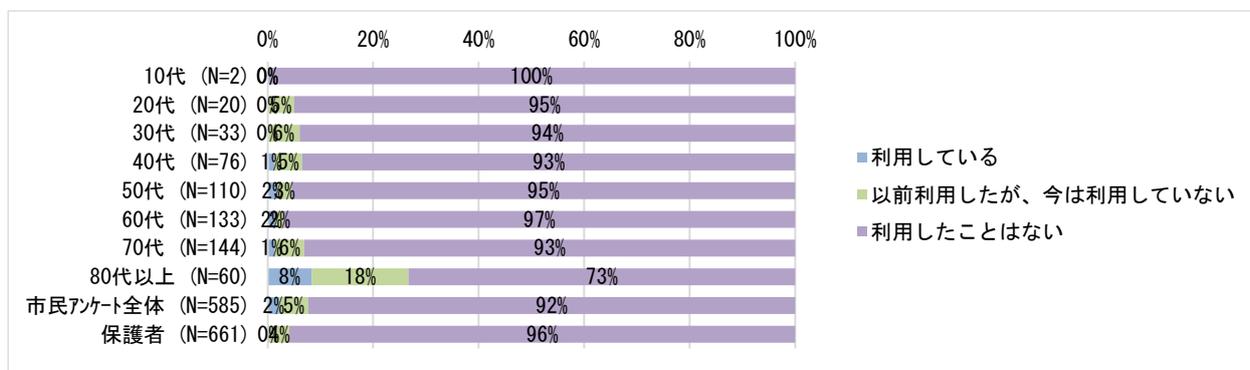
②④



各年齢層とも6割以上の方が運行の認識はある。最も高いのは70代であり、低いのは20代、30代となっている。

(「知っている」と回答した人のみ) 利用の有無 (年齢層別)

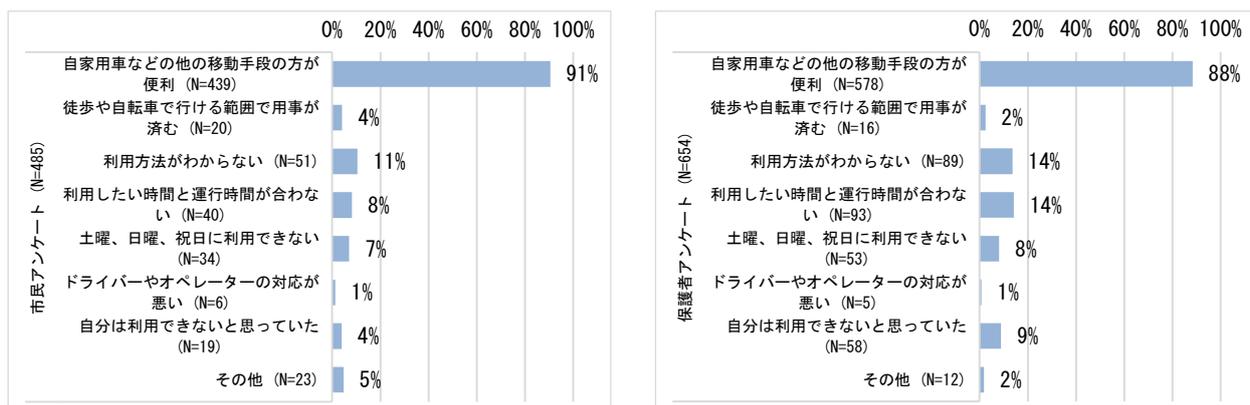
②④



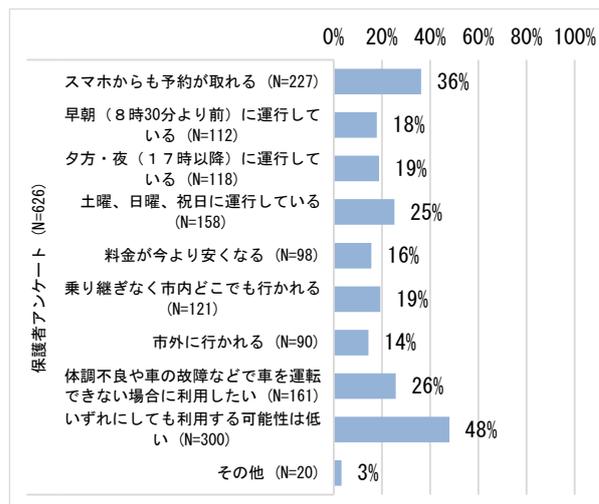
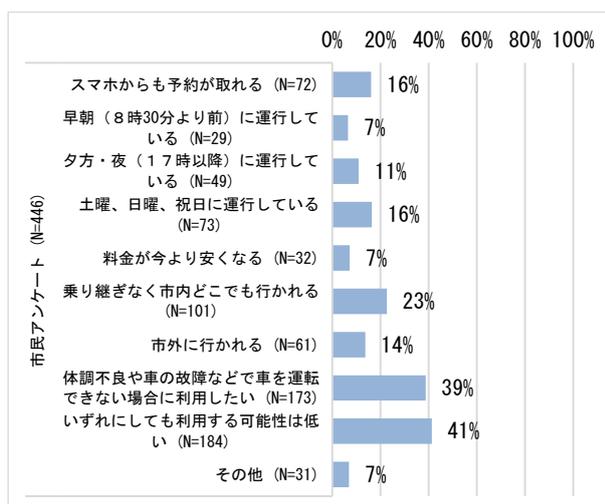
「利用している」と回答としたのは全体の2%であり、一定の認知度はあるものの実際に利用している人は少ないことが分かる。年齢層別にみると80代以上が8%で最多である。

(利用していない人) 利用していない理由【複数回答】

②④



とうみレッツ号を利用しない理由として、「自家用車などの他の移動手段の方が便利」なことを挙げる人が多数を占める。

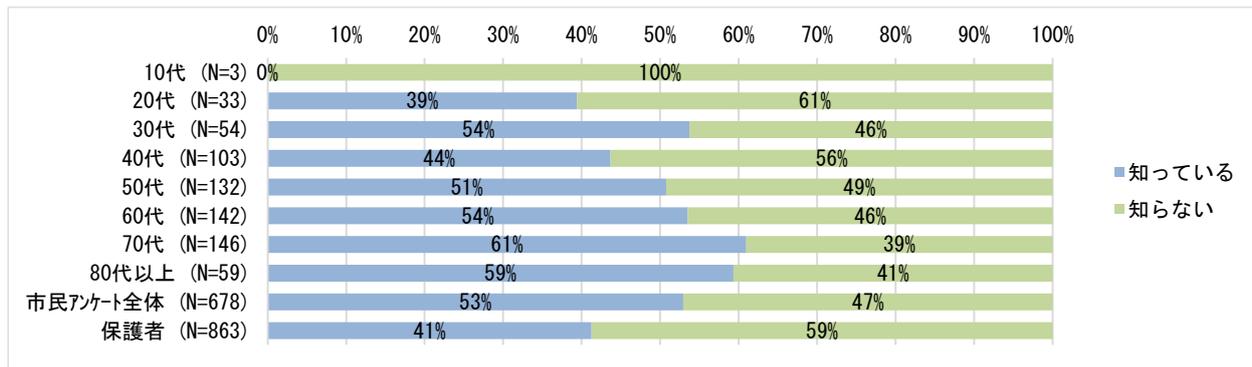


市民アンケート・保護者アンケートともに「いずれにしても利用する可能性は低い」と答える人が最も多い。次いで多い回答は、市民アンケートでは「体調不良は車の故障などで運転をできない場合に利用したい」、保護者アンケートでは「スマホからでも予約が取れる」となっている。

■ 定時定路線バスの認識、利用状況

運行の認識 (年齢層別)

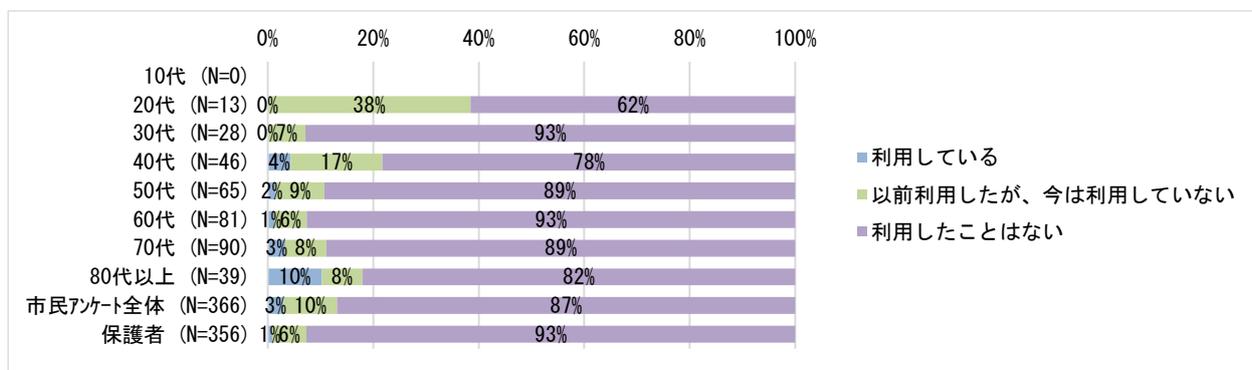
②④



とうみレッツ号の認知度と比べると各年齢層とも低い値となっており、全体の約半数が運行の認識がない状況である。

(「知っている」と回答した人のみ) 利用の有無 (年齢層別)

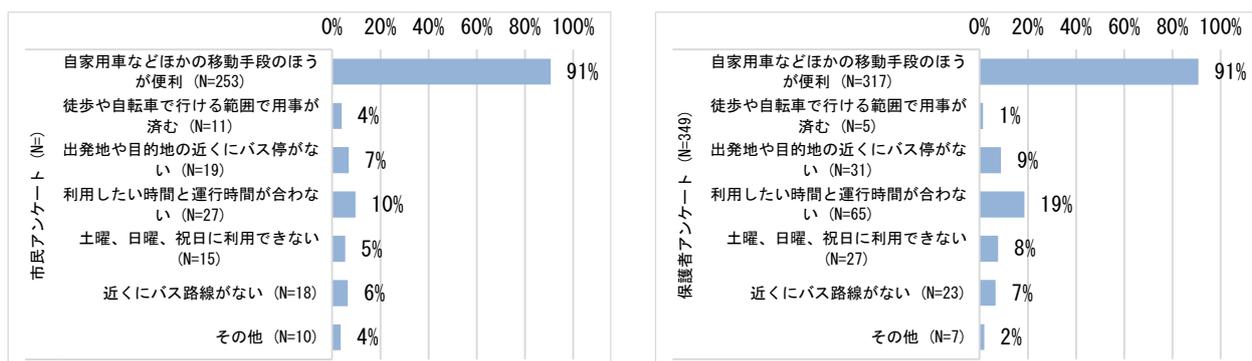
②④



年齢層別にみると、80代以上が「利用している」割合が最も高い。通学用バスとしての用途があるため、20代では「以前利用したが、今は利用していない」と回答する人の割合が高い。

(利用していない人) 利用していない理由【複数回答】

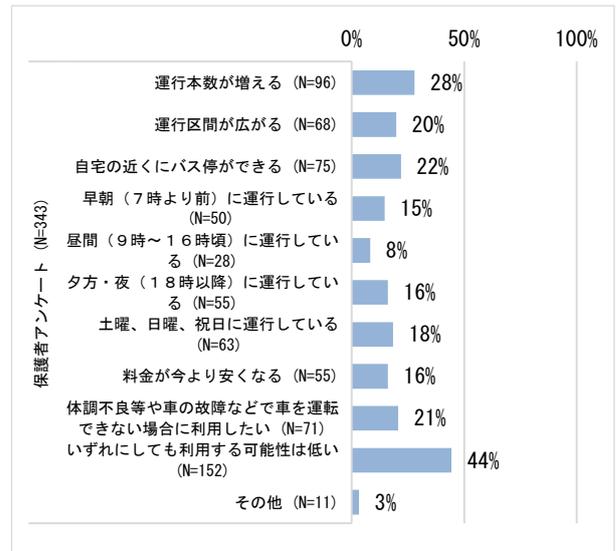
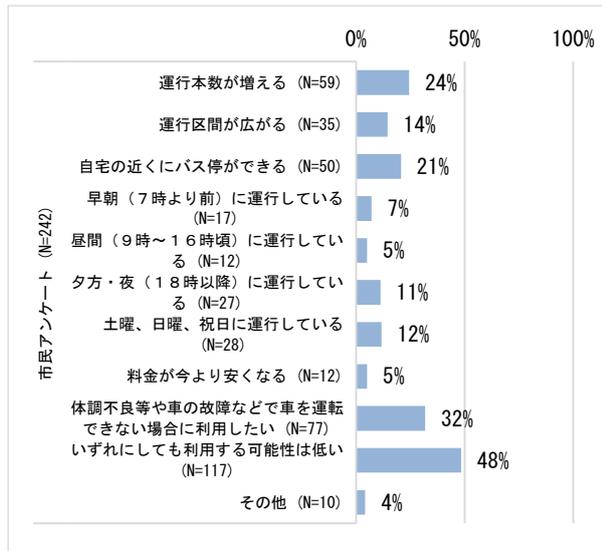
②④



定時定路線バスを利用しない理由として、とうみレッツ号と同様に「自家用車などの他の移動手段の方が便利」なことを挙げる人が多数を占める。

(利用していない人) どのような運行になれば利用する可能性があるか【複数回答】

②④

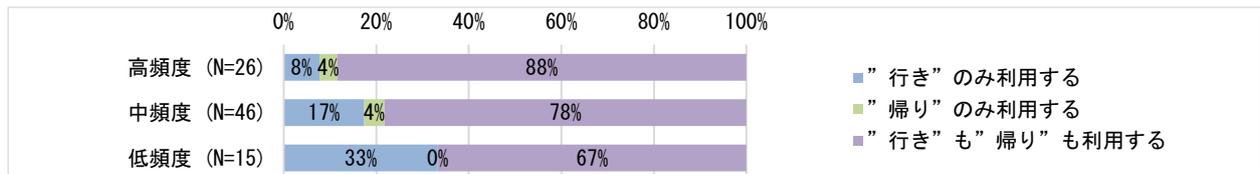


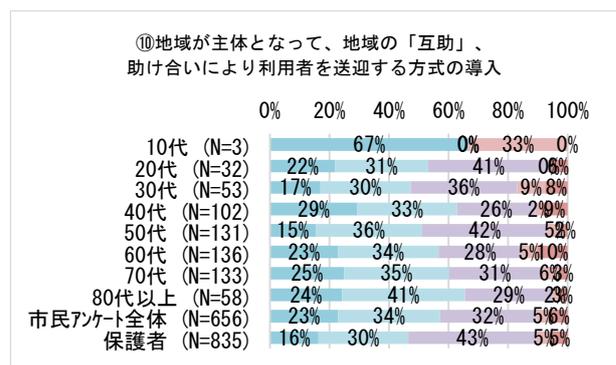
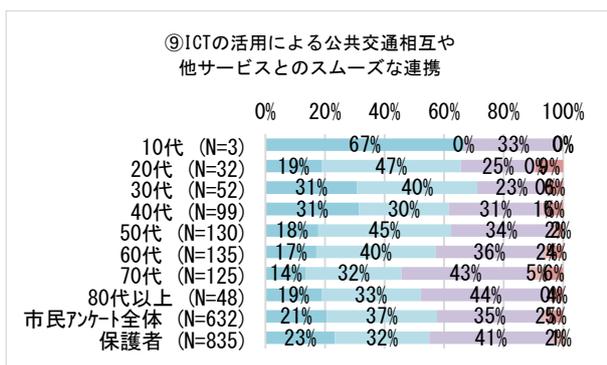
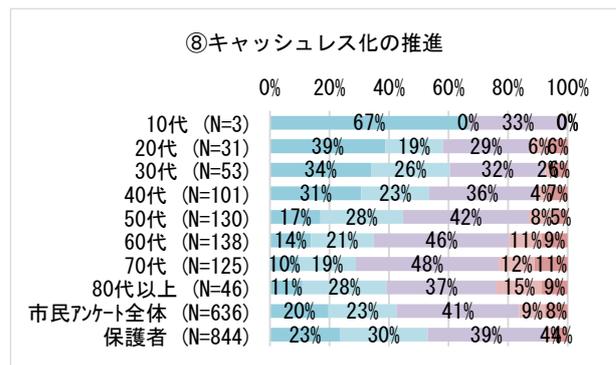
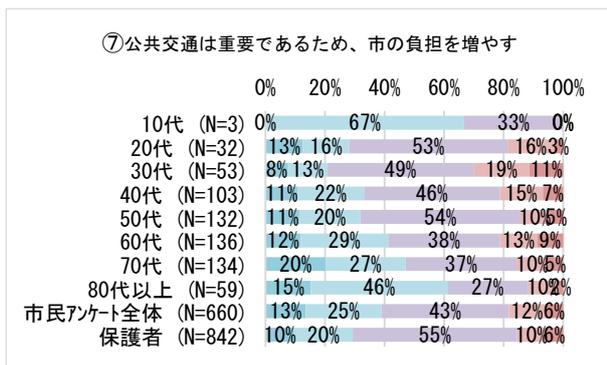
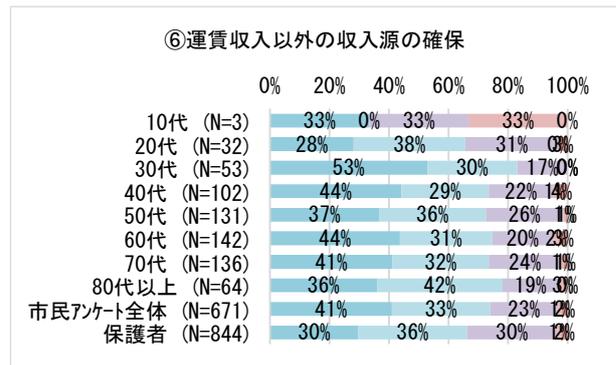
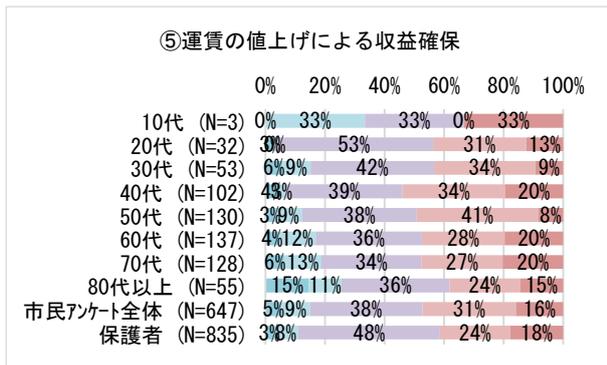
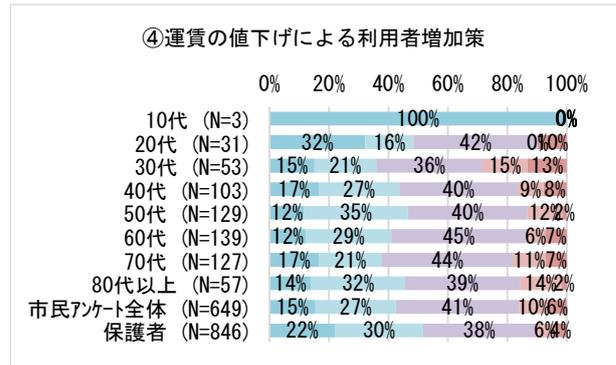
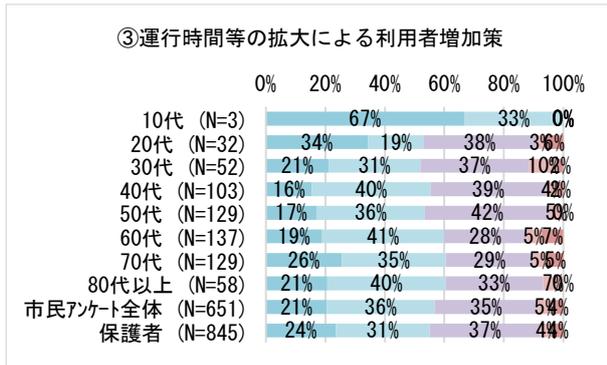
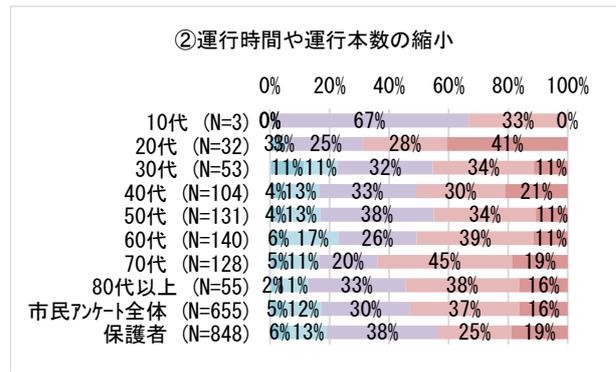
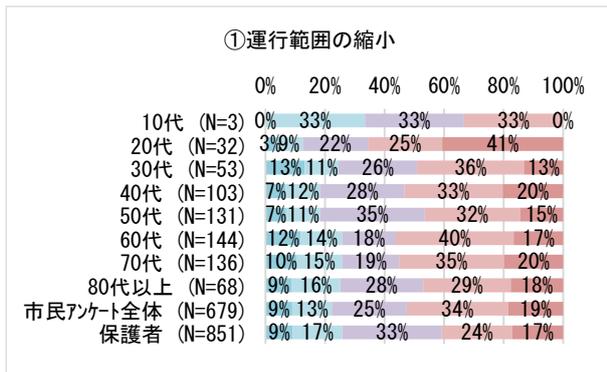
市民アンケート・保護者アンケートともに「いずれにしても利用する可能性は低い」と答える人が最も多い。次いで多い回答は、市民アンケートでは「体調不良は車の故障などで運転をできない場合に利用したい」、保護者アンケートでは「運行本数が増える」となっている。

(実際に利用している人) 往復利用 (利用頻度別)

⑥

※ 「ほぼ毎日」「週に数回」を高頻度、「月に数回」を中頻度、それ以外を「低頻度」として集計





■行うべき ■できれば行った方がいい ■どちらでもない ■できれば行わない方がいい ■行すべきではない

「①運行範囲の縮小」や「②運行時間や運行本数の縮小」、「⑤運賃の値上げによる収益確保」といった利用者の利便性低下や費用負担の増加に繋がるような検討は、年齢層を問わず行わない方がよいと考える人が多い。

年齢層による回答傾向の違いをみると、「⑦公共交通は重要であるため、市の負担を増やす」は高齢になるほど行うべきとする意見が多くなり、「⑧キャッシュレス化の推進」は若年になるほど行うべきとする意見が多い。

全体的に「できれば行わない方がいい」や「行うべきではない」といった否定的な意見が少数であるのは、「③運行時間等の拡大による利用者増加策」や「⑨ICT の活用による公共交通相互や他サービスとのスムーズな連携」となっている。

■観光施設等への移動実態

移動手段（居住地別）

⑦



移動手段（来訪目的別）

⑦

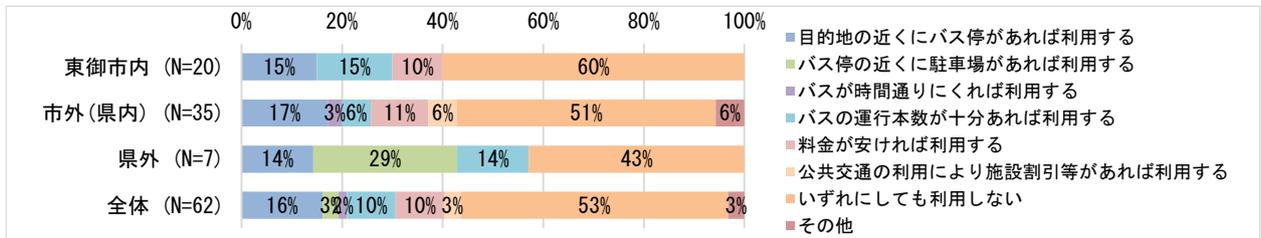


観光施設等への移動手段としては、自家用車を利用している人が全体の7割超となっている。居住地別でみると、東御市内の人は約8割が自家用車を利用しており、とうみレッツ号を利用している人は1割程度である。県外からの来訪者は、観光目的で来た人がタクシーやレンタサイクル（自転車）を利用するケースもある。目的別でみると、通院や買い物、飲食といった日常的な利用目的のケースにおいて、とうみレッツ号の利用割合が大きくなっている。

公共交通（バス・タクシー）を利用する条件（居住地別）

（※自家用車・バイクで来訪した人のみ回答）

⑦



公共交通（バス・タクシー）を利用する条件（来訪目的別）

（※自家用車・バイクで来訪した人のみ回答）

⑦



「いずれにしても利用しない」と回答する人が全体の半数以上であり、市内在住者では6割を占めている。利用する条件としては、目的地の近くにバス停があることを挙げる人が最も多くなっている。